

■会員「近況報告・所感・投稿」

(2)「近況報告・所感」(年末・年始にいただいたご連絡から)(卒業期順)

総会終了後、また新年を迎えてからいただいたお便りの中から、下記を「近況報告・所感」としてご紹介します。

高5(昭29卒)板垣 衛武 (西宮市)

皆さん、お変わりございませんか。災難と凶事が続いた令和四年でしたが、終わりそうにありません。何とか新年が良い年になるようお願いいたします。

ウクライナでのロシア兵の非道は、言葉では納まりません。彼等に勝つためには強い軍事力しかないと思います。

先の大戦で日本が敗戦を迎えた時、私は中国天津市の国民学校四年生でした。学校の校庭に、張家口から大勢の避難民が来て、学校が終了したのを思い出します。学校のすぐ近くに、父が経営する電気工事会社があったので、両親が炊き出しやら、衣類を運んでいました。たまたま父の友人が張家口の警察署長でしたので、その家族、奥様と娘さんが二人、我が家へ合流しました。署長はロシア兵と闘い戦死されたそうです。ロシア兵は民間人も区別することなく、家財道具は何でも盗んだと聞きました。

避難民が優先して帰国した後、我家の真向かいの女学校にはアメリカ海兵隊が来ました。父は日本租界の代表者の一人として、毎日海兵隊のご用聞きを勤めていました。海兵隊は紳士的で、世話するとアメリカ映画を鑑賞させてくれたり、コンビーフの缶詰をくれるのでした。私は我家の階上に上がり、校庭で連日のように行われる海兵隊のパレード、軍楽隊の演奏を楽しんだものです。

このような幼児体験がありましたので、日米安保は、反対どころか内心賛成だったのです。今や、安保は、かつて反対した人々も黙認するしかない状況になってしまいましたね。

待ち望む帰国は、生活に困る家庭が優先、我家は最終便でした。家を出る日の朝から、我家は大勢の中国人に囲まれ、脱出するのが困難になりました。そんな時、父が付き合っていた海兵隊員が駆けつけてくれたのです。中国人の目当ては家財道具でした。

余談になりまして申し訳ございません。

ウクライナの窮状を考えていましたら、遠い日の出来事を明瞭に思い出してしまいました。良い年を迎えられますようお祈り申し上げます。

高 10 (昭 34 卒) 佐和田 丸 (枚方市)

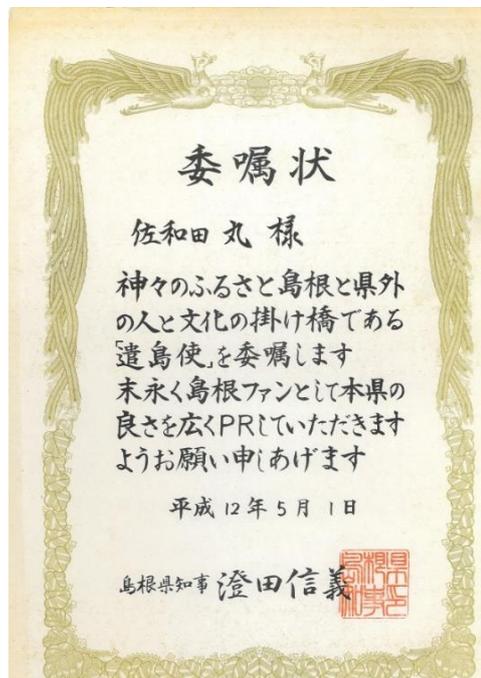
正月は、久しぶりに3人の子供家族が集まり、孫も6人元気な顔を見せ、賑やかな嬉しい正月となりました。美味しいお屠蘇をいただきました。孫の成長ぶりに、驚き、そして元気をもらいました。コロナ、早くおさまってほしいですね。

訃報に接することが多くなりました。死後の世界のことを考えることが多くなりました。

死後の世界はどうなっているのか。ある本には、すべてなくなる、とありました。違う本には、人間は、幽体と肉体からなり、死後、肉体はなくなるが、幽体は生き続け、死と再生を繰り返す、いわゆる輪廻が続いていくとありました。あの世へ行きましたら、いずれが正しいか、調べて、本HPで報告することにいたします。

終活整理をしておりましら、遣島使依嘱状ができました。今は、この仕事をライフワークに生活しています。

皆さんも手を挙げていただいて、一緒に郷土貢献しませんか



高 11 (昭 35 卒) 押田 良樹 (吹田市)

「オリックス、リーグ連覇、そして26年ぶりの日本一」

前年に引き続きTV観戦に専念。前年は不注意から1試合を見逃したが、2022年は全ての試合をリアル観戦した。1試合だけは地下鉄車内でスマホ動画配信。この日は奇しくも6月18日、久しぶりの近畿双松会役員会。山本由伸が西武相手に見事ノーヒットノーランを達成した瞬間を目にしたときは、車内にもかかわらず思わず「やったー」と叫びたい衝動を必死にこらえた。

シーズン終盤は9割がたソフトバンクのVを覚悟したが奇跡の最終日逆転、そして日本シリーズも見事な逆転優勝。万々歳のシーズンだった。スポーツ紙を5紙買いこみ、あまりの熱中ぶりに某氏からは祝福とともに、心配するメールをいただいてしまった。

阪神は開幕戦での躓きがあまりにも痛かった。松本会長はじめ多くの虎ファンには気の毒なシーズンだったが、今年の岡田阪神に期待したい。

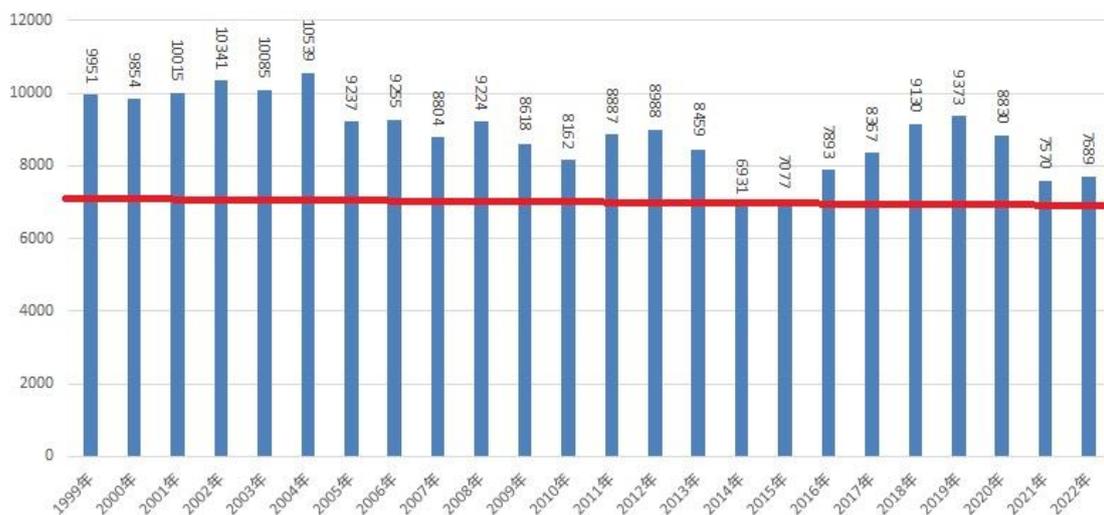
「ウォーキング、一日7000歩クリアー」

1999年から続けている日々の歩数記録、2022年は年間280万歩、一日平均7700歩と目標をクリアーした。万博自然公園が歩いて12分のところにあるのがありがたく、コロナ下でも四季の樹木、草花を楽しみながら体力保持に努めることができた。

因みに記録を取り始めてから23年間の総歩数を距離に換算すると、5万900km(1歩65cmとして)、赤道を一周してさらに太平洋を渡ったくらいになり、気が遠くなる数字である。

それでも目的の一つである体重削減の効果がないのでは残念である。

一日平均歩数



高16(昭40卒)近畿双松会 会長 松本 耕司(枚方市)

「新年のご挨拶」

新型コロナ感染禍のため、2020・21年と2年連続で総会開催を中止せざるをえなくなり、その間の紆余曲折の対応には文字通り辛抱・我慢を要しましたが、昨年11月26日、3年ぶりの総会の開催にこぎつけた時には70名を超える皆様に駆けつけていただき、その感動と感謝の思いで胸が一杯になりました。皆様には心から御礼を申し上げます。

母校や郷土を応援し、相互の交流を深めるという当会の目的からして、直接お会いできる機会がいかに大事であるかを、こういう時代であるからこそ余計に強く感じた次第でもありました。

もうこれで感染も大丈夫だろうと思っていた今年1月15日の「宝塚鑑賞会」は、40名ものご参加申し込みがあり大盛況を想定していました。が、しかし、劇場側スタッフに感染者が出て直前に突然の公演中止という残念な結果となり、まだまだ、楽観などできる状況ではないこともあらためて思い知らされました。ご鑑賞ご希望だった皆さん、ご担当の今西亜子幹事(43・理22)には、本当にご苦勞様でした。捲土重来、臥薪嘗胆で、めげずに次回の盛會を期してまいります。

そして、まもなく迎える2023年度は近畿双松会にとっては「設立65周年」の記念の年です。コロナ感染を含め、どのような環境が待っているのか予測もつきませんが、与えられた条件の中で、当会の目的達成に向けての活動を続けていきたいと考えています。勿論、会員の皆様のご協力と、神仏のご加護にもおすがりしながら・・・。

高 16 (昭 40 卒) 森藤 哲章 (榎原市)

榎原市在住の伴稔也先輩(9期)と電話で正月の挨拶をしました。伴さんは高校時代は南田町で生活をしていて学校までは歩いて10分程度だったそうです。

かつての近畿双松会での清原正義島根県立大学学長の講演や、去年の土岐祐一郎元大阪大学附属病院長の講演のスライドに出てきた「西川津校舎」のあの頃と今の位置関係を知りたくて、「近畿双松会；懐かしの西川津校舎」の記事も参考に、最近はしばしば現地に赴いていますが、様変わりをしていて詳しいことが分かりづらいです。

現存する京橋川や校舎の西側にあった川が参考になりますが、くにびき道路や松江市総合体育館等と西川津校舎がどのような位置関係にあったのか？ 学園祭の時に僕はどの位置にいたのか等を詳しく知りたいですね。

高校時代は、ただひたすらに通学していましたが、大橋川北岸に福島造船があったことは覚えてます。

高 26・理 5 (昭 50 卒) 松村 聡 (高槻市)

「飯石浩康さん(高 25・理 4)の思い出」

今回の総会で、北高卒業以来初めて飯石さんにお会い出来ました。その折、ご本人にも直接お伝えしたのですが、当時北高では、前年に有名難関大学に合格された先輩が、悩める後輩に受験勉強の秘訣を伝授するという企画があって、そこに阪大医学部に合格された飯石さんも登場されていました。

飯石さんは「数学は、教材のチャート式数学を3回隅から隅まで読んだ、それだけ」と言われ、若干拍子抜けしたことを覚えていますが、藁をもすがる思いで実際にやってみるとこれが大変！超難解数学問題百選等、仰々しい題名の問題集を「積ん読」していた私には目からウロコと言うか、「まずは基礎を固めてそこから」という大原則を思い起こさせて頂き、以後の人生でも時々このエピソードを思い出しております。

年末年始も、一向に上手にならないゴルフに取り組んでおりましたが、松山英樹のスイングを何回見ても罅が明かないのは、この飯石さんの思い出、教訓が生かされていないのかもしれないかもしれません。

高 42 (平 3 卒) 三好 博子 (枚方市)

2022年12月4日、3年ぶりに開催された国宝松江城マラソンに、初めて参加しました。

松江市総合体育館を出発し、松江城を右手に見ながら、宍道湖大橋を渡り、松江駅を通過し、くにびき大橋を渡り、朝酌から大根島、江島、美保関、本庄を通り、松江市総合体育館に戻ってくる、景色を楽しみながら走れるコースでした。

東京や大阪のような、都市型マラソンの派手さはありませんが、地元の方が、家の前を通るランナーに声援を送ってくださったり、中学校の吹奏楽部が演奏してくださったりと、心温まるお

もてなしが大変嬉しく、元気をもらいました。

そして、私の走る姿を見たことなかった両親が、くにびき大橋とゴールで応援してくれて、とても喜んでくれたのが印象的でした。

結果は、自己ベスト更新で、松江で初サブ4(4時間を切ること)を達成できました。また今年も両親のために、国宝松江城マラソンにエントリーしようと思います。

